

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 22 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520500

研究課題名(和文) オンライン異文化相互学習ネットワークを用いた第二言語学術リテラシー発達過程の研究

研究課題名(英文) The Developmental Processes of L2 Academic Literacy through Online Intercultural Networks

研究代表者

根本 浩行(Nemoto, Hiroyuki)

金沢大学・外国語教育研究センター・准教授

研究者番号：40452099

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本の大学で英語科目を受講する学生とオーストラリアの大学で日本語を学ぶ学生を対象としたオンライン異文化インターアクションプロジェクトを元に、日本人学生の英語学術リテラシーの発達過程、異文化相互学習ネットワーク形成過程、そしてネットワークが言語習得過程に及ぼす影響を質的・量的に調査した。研究結果として、オンラインインターアクションにて情報を収集・分析し、英語論述課題に融合していく際に起こる様々な言語管理過程を例証し、状況におけるアイデンティティの変容およびメタ認知・認知能力の発達などにより言語管理が促進され、第二言語学術リテラシーの習得に繋がることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Based on a task-based online project between learners of English at a Japanese university and learners of Japanese at two Australian universities, this study illustrated the processes through which Japanese students undertake online interactions with their Australian partners and apply the findings of interactions to their assignment writing in English. The findings suggest that L2 academic literacy socialization involves various language management actions triggered by identity transformation, (meta) cognitive development, L1 paraphrasing, inductive reasoning, reader awareness, perception of cross-cultural similarities, and focus-on-form reflection.

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：社会言語学

キーワード：学術リテラシー 第二言語の社会化 言語管理 オンライン異文化ネットワーク コンピュータを媒介としたコミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

第二言語習得 (Second Language Acquisition) (以下 SLA) の研究が盛んに行われるようになってきた 1970 年代から 1980 年代にかけて SLA は主に学習者個人の中で発生する認知過程とみなされていた。近年、その伝統的アプローチの重要性を認めつつも、認知発達が社会的に構築される性質を持ち外的要因に多大な影響を受けるといった認識が高まり、認知過程と社会文化的過程が SLA において両軸をなすという見解へと変換を遂げてきている (cf. Zuengler & Miller, 2006)。現在 SLA では「状況に埋め込まれた学習 (situated learning)」、「言語の社会化 (language socialization)」などの社会文化理論が用いられ、言語を知識として学ぶのではなく社会に根付いた活動を通して習得するという考えのもとに、状況に応じた言語使用活動にどのように取り組むかを分析する研究が増えてきている。このように、第二言語習得過程を考察する上で社会文化的要因は切り離すことができないものであり、認知能力 (cognitive competence) と社会文化能力 (sociocultural competence) は密接に係り合いながら第二言語能力の発達に影響を与えている。そのため、第二言語教育の質的向上を図るためには様々な社会文化的活動を用いオーセンティックな言語使用環境を提供することが必要となる。

上記の理論的な推移と相重なるようにマルチメディアが目まぐるしい発達を遂げてきている近年、SLA や異文化インターアクション能力の研究・教育では、社会文化的活動の供給源としての e ラーニングの有用性に改めて着目するようになってきた。しかしながら、当該分野での実質的な研究は国際的に不足しているのが実情であるし、まして日本人第二言語学習者を対象とした研究は国内外を見回してもほとんど見当たらない。Lam (2003) が中国人英語学習者 4 名を長期的に調査したケーススタディの中で、メールやチャットを用いたオンラインでの英語リテラシー能力の習得調査を試みているが、e ラーニングによるオーセンティックな異文化場面の構築を促進するためには同質の異なる視点からの質的・量的研究がまだまだ必要である。

2. 研究の目的

日本の大学で英語科目を受講する学生とオーストラリアの大学で日本語を学ぶ学生を対象としたオンライン異文化インターアクションプロジェクトを元に、日本人学生の英語学術リテラシーの発達過程、異文化相互学習ネットワーク形成過程、そしてネットワークが言語習得過程に及ぼす影響を質的・量的に調査した。具体的な研究目的は以下のとおりである。

(1) オンライン異文化インターアクションが

第二言語リテラシー発達過程に及ぼす影響を詳細に解明する。オーセンティックな情報をどのように聞きだすか、得た情報をどのように分析し自分の意見をサポートするために用いるか、その情報をいかに文章に取り入れ自らの意見をどの程度具体化し論理的文章構成力およびリテラシーを身につけるかを解明する。

(2) 個人レベルでの異文化言語相互学習ネットワーク形成過程において日本人学生がどのような問題に遭遇するか、その問題をどのように留意および評価するか、また問題を調整する際にどのようなストラテジーを用いるかを明らかにし、ネットワーク形成がリテラシー発達過程に与える肯定的な影響のみならず否定的な影響をも検証する。

(3) 海外の大学と連携した共同言語教育プロジェクトの構築法を考察し、「教育における言語計画理論」(Kaplan & Baldauf, 2003) を基にプロジェクトの主要因(方針、実践、学生の教育的ニーズおよび学習目標)の均衡が保たれているか、またどのような葛藤があるかを明らかにすることで研究結果を実践的に応用する。

3. 研究の方法

平成 21、22 年度金沢大学重点戦略経費をもとに行ったパイロットスタディを土台とし、平成 23 年度授業開始時から量的データ収集を行った。オンラインプロジェクトに参加する学生全員を対象にアンケート調査を行い、オンライン異文化インターアクションの全体像を浮かび上がらせ大まかな傾向を明らかにした。

また、オンライン異文化インターアクションプロジェクトの点検および修正を行った。その上で、前年度同様アンケート調査を行い、質的データ収集の際に考慮すべき大まかな傾向を量的に捉え、その結果をもとに日本人学生を対象にケーススタディを実施した。前期・後期日程ともにダイアリースタディ、フォローアップインタビューを活用し、学期ごとに 10 名を選び、オンライン異文化交流開始日から問題点、その解決法、自己評価等を記した日誌を書いてもらい、一週間に一度フォローアップインタビューを行った。さらに、授業内のグループワークをビデオ録画しオーセンティックな情報をどのようにグループ内で共有し課題の中に取り入れるかという点に関しても検証を進めた。平成 25 年度は、オンライン異文化インターアクションを用いたプロジェクト型課題をより体系的に英語アカデミックライティング教授法に導入し、アンケート調査による量的データおよびケーススタディによる質的データを追加収集した。これら複数のデータ収集方法を用いることで、様々な種類の量的・質的データを集め「多角的データ分析 (data triangulation)」を行った。

4. 研究成果

量的データ解析により、「コンピュータを媒介としたコミュニケーション (computer-mediated communication)」を用いたライティング活動が、情報収集・分析能力を含めた英語学術リテラシー能力発達過程にどのような影響を与えるかを特定し、ダイアリースタディ、インタビュー、英文メールおよび英語論述課題などから得た質的データ内に先に特定化された要因がどのように現れるか検証することで、主要因の例証と発生プロセスの考察を行った。第二言語の社会化には、母語による換言、帰納的論法によるアイデアの明瞭化、読み手認識、異文間における類似点の認識、フォーカス・オン・フォームなどによる言語管理活動が伴い、これらの活動が、状況におけるアイデンティティの変容およびメタ認知・認知能力の発達へと繋がることで言語管理がさらに促進されることが示された。また、文化接触を留意・評価することで、母語規範と英語による基底規範の調整が可能となるだけでなく、肯定的な文化接触を判別することができるようになることが明らかになった。その研究結果をまとめた著書、「The Development of L2 Academic Literacy through Online Intercultural Networks」を E. Stracke 編集による図書「Intersections: Applied Linguistics as a Meeting Place」にて2014年に刊行予定である。また、この研究結果を教育現場に還元すべくオンライン異文化インターアクションプロジェクトの学生用マニュアルを作成し、具体的な指示説明を受ける前と後でどのような変化が現れるかを考察するため、アンケートおよびケーススタディを用いた第2次量的・質的データ収集を実施した。これらのデータを分析することで、今後海外の大学と連携した共同言語教育プログラムのさらなる体系化を図っていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

根本浩行「日豪大学間交換留学制度における教育上の言語計画」金沢大学外国語教育研究センター紀要『言語文化論叢』2013年、17号、21-39頁(査読無)

Hiroyuki Nemoto, "Noting and evaluating contact between Japanese and Australian academic cultures", *Journal of Asian Pacific Communication*, 2012年、22(2), 249-270頁(査読有)

根本浩行「第二言語習得における社会文化的アプローチ」金沢大学外国語教育研究センター紀要『言語文化論叢』2012年、16号、19-38頁(査読無)

〔学会発表〕(計 9件)

Hiroyuki Nemoto, A Project-Based Approach to L2 Academic Literacy Socialization: Online Intercultural Interactions between Japan and Australia, Japan, Australia and the global context: Connections across languages and societies, 2014.3.15, Monash University, Australia
Hiroyuki Nemoto, "Language management in socialization into L2 academic literacy: The incorporation of online intercultural interactions into task-based academic writing", 3rd Combined Conference of the Applied Linguistics Associations of NZ and of Australia, 2013.11.29, Victoria University of Wellington, New Zealand.
Hiroyuki Nemoto, "Language management through online individual networks of practice: Integration of quantitative data into qualitative research", Third International Language Management Symposium: Special focus on research methodology, 2013.9.14, Charles University, Prague, Czech.

Hiroyuki Nemoto, "The impact of online intercultural networks on L2 socialization", The Annual Conference of the Canadian Association of Applied Linguistics, 2013.6.4, the University of Victoria, Victoria, Canada.

Hiroyuki Nemoto, "The development of L2 academic literacy through online intercultural interactions", 2013.3.18, The American Association for Applied Linguistics (AAAL) Annual Conference, Dallas, USA.

Hiroyuki Nemoto, Socialization into L2 academic literacy through online intercultural interactions, Applied Linguistics Association of Australia Annual Conference: Evolving Paradigms: Language and Applied Linguistics in a Changing World, 2012.11.12, Curtin University, Perth, Australia.

Hiroyuki Nemoto, Eliciting, interpreting, and integrating sociocultural information into text: The impact of online intercultural interaction on L2 academic writing, 45th Annual Meeting of the British

Association for Applied Linguistics:
Multilingual Theory and Practice in
Applied Linguistics, 2012.9.8, The
University of Southampton, England.
Hiroyuki Nemoto, How do L2 learners
gain and use authentic sociocultural
information?:The development of L2
academic literacy through online
intercultural networks, 2011.12.1,
2nd Combined Conference of the Applied
Linguistics Associations of NZ and of
Australia, University of Canberra,
Australia.

Hiroyuki Nemoto, The impact of online
intercultural interaction on L2
academic literacy, 2011.10.1, Second
International Language Management
Symposium, 早稲田大学.

(2)研究分担者
該当なし ()

研究者番号 :

(3)連携研究者
該当なし ()

研究者番号 :

〔図書〕(計 1件)

Hiroyuki Nemoto, " The development of
L2 academic literacy through online
intercultural networks ",
*Intersections: Applied Linguistics as
a Meeting Place*, E. Stracke 編,
Cambridge Scholars Publishing, 2014
年 (査読有) 総ページ数 : 20 頁

〔産業財産権〕
出願状況 (計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

根本 浩行 (NEMOTO, Hiroyuki)

金沢大学・外国語教育研究センター・准教
授

研究者番号 : 40452099